

図書館

としょだより

だより

問い合わせ先

泗水図書館 ☎ (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ (37) 3111 内線303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

※図書イベント情報は、32ページの行事予定へ掲載しています。



これは「国民読書年」のロゴマークです。国が読書に対する国民意識を高めようと、2010年を「国民読書年」と定め、いろいろな取り組みを進めています。この機会に読書を楽しみましょう。

新着・お薦め図書

泗水図書館

スロープ 平田俊子 著
 老人賭博 松尾スズキ 著
 江(上・下) 田淵久美子 著
 石牟礼道子全集 石牟礼道子 著
 犬として育てられた少年 ブルース D. ペリー 著
 藤田嗣治 手しごとの家 林洋子 著
 どうぶつのからだ(全6巻) 増井光子 監修
 ともだちごっこ 内田麟太郎 作 降矢なな 絵

中央公民館図書室

天翔る龍 坂本龍馬伝 山村竜也 著
 忘却の整理学 外山滋比古 著
 マノロブラニクには早すぎる 永井するみ 著
 めのと 植松三十里 著
 おふとんかけたら かがくいひろし 作

七城公民館図書室

えんふねにのって 東力 著
 いちばんじゃなくて、いいんだね。 松野明美 著

旭志公民館図書室

アントキノイノチ さだまさし 著
 おはようきょうりゅう 木坂 涼・文 福岡昭二・絵

月夜のみみずく

冬の夜ふけにお父さんと二人で
 みみずくに会いにいってお話です。
 遠くに汽笛の音がして、犬もあ
 わせて歌い出し、それが消えると
 静かな森の奥へうつつと歩いてい
 く。「ほうーほう」と声をかける
 が返事がない。その内、みみずく
 がとんできて木の枝にとまった。
 ドキドキしてみつめ合った。そし
 て森の奥へとかえっていった。
 私はこの本の1ページめをめ
 くれたところで、肌にしみる程の
 冷えびえとした情景、遠くに汽車
 が走る、一瞬にして自分の心が澄
 んでいくのを感じました。ページ
 をめくる毎に文の表現や絵に和



出口久代さん (四 永)

ジェイン・シヨールエンハール 詩 絵

み、また、父と子の心あたたまる
 ふれあいがあるのです。
 私は、東小ワングー文庫の一員
 で、絵本の読み聞かせをさせてい
 ただいております。この本の「ほ
 うーほう」のところを読むと、子
 どもの方から「ほうーほう」とか
 えってきます。これからもううっ
 と、絵本を通して子どもたちとの
 ひとときを楽しみにしています。

耳より情報

泗水図書館を紹介します!

泗水図書館は、約80,000冊の資料(本・雑誌・CD・ビデオ・DVD)を所蔵し、市民の本棚として多くの人に利用していただいています。市町村合併後、平成19年度より指定管理者制度が導入され、現在NPO法人が指定管理者となって運営しています。



緑のエプロンが目印です!

6人のスタッフが、貸出やリクエストなどのサービスに対応しているので、気軽に声をかけてください。(泗水図書館)



ペットの写真募集中!

あなたの家族の一員でもあるペットの写真を、図書館に展示してみませんか? 犬・猫・鳥など、どんな動物でもOK! 詳しくは図書館カウンターまで。(泗水図書館)

肥後狂句桜会 3月例会

デパ地下で 味見しすぎて決めきらん 上村 玲子
 デパ地下で 年越しソバは食べて帰る 小川 繁美
 冗談でしょ 一桁違やしませんか 狩野 本六
 長閑なり 道尋ねたらお茶の出た 窪田 明德
 また肥えた 勿体無アの多過ぎる 田中 孝幸
 自由きまま 条件付で嫁ったつ 神尾 迫水
 読みにくさ 下手が読むとにや上手すぎ 平井 江彩
 その調子 歌も踊りもうまいもん 続 義昭
 卒業して 浮気は嫌としよります 吉岡 三水
 読みにくさ 自分で書いた日記帳 中島 五女
 晩に声を残して鳥帰る 隈部 輝子
 墓守のごと一本の桜かな 田島 房子
 啓蟄や庭の草でも雀らうか 加藤 妙子
 里山に生氣貫ひし初音かな 北村 妙子
 咲き満ちて雨に散りゆく桜かな 平山 邦子

旭志文芸俳句会 3月詠草

野火の爆ぜ風を孕みて睡走る 芹川のり子
 高原は枯木に花の樹水かな 水上 ミネ
 アンケート方言起す春炬燵 芹川 蓉子
 三つ又の花の小道や阿蘇の宿 中尾ヨシコ
 白梅紅梅活けて仏間の華やげり 東 芳子
 抱かれて添寝されたき寝釈迦かな 内村 泊虹
 若き僧の経朗々と彼岸寺 藤本 邦治
 春の雪見馴れぬ鳥も庭に来て 寺本 和子
 入学式を待たず桜の花開く 服部 静子
 装ひて来しデイサービスの日すがらは鉄 渡辺 大寿
 ・鎌休ませかたみに安らぐ 岩崎 照代
 逝きし友の空家の庭は紅梅のピンクの花 緒方 寛子
 びら散り敷き詫びし 緒方 寛子
 決断の遅きが過ち姫パンジー花咲き初め 吉間 充子
 て間引きが出来ぬ 吉間 充子
 庭石に散りゐる梅の花びらの斑模様は帯 佐々 重弘
 取らせず 父母のいづれおわさば訪ぬる里の家娘の 下川 つぎ
 運転の車窓に遙か

菊池短歌会 3月詠草

「大丈夫かい」忘れられない亡兄の声今朝も聞こえた夢の中に 余語やす子
 暖炉焚く炎ゆらゆら広がって御先祖の恵みのごとき身めぐり 岩木 妙子
 早春賦つい口をつき着ぶくれの襟かき合はせ菜を採りに出づ 氏岡 百枝
 さわさわと朝の風わく竹藪のあたりにしきり笛鳴きのする 梅田 昭子
 耳順我が未だ哀しみて購ふはうすも色の春のマフラー 怒留湯健蓉
 往き来して麦踏みしたるもはるかにて麦田見えざり郷は変わりぬ 大島 ひと
 赤芽極 梅の若芽の伸びゆくをやさしくゆるゆる春のそよ風 増田久美子
 市内より今から出るとう孫の声ストープつけ待つ寒もどる朝 平嶋きくえ
 陶鉢に黄のリュウキン花咲きに咲く冬の陽だまり温き陽だまり 福原美智子
 古里の御墓に春の陽照り映えて父母の声かと風の音聞く 中山 定子

文芸きくち参加者紹介

名称 菊池短歌会
 活動 毎月第2金曜日午後1時～
 と き ふれあいセンター
 ところ

紹介 50年程前に発足した菊池短歌会は、竹野美智代先生のご指導のもと、お互いの詠草を批評し合い共感しながらも、また反論もあり。その一首一首を味わい喜びます。いつでも、どなたでも入会を歓迎します。
 問い合わせ先 菊池短歌会事務局(村上) ☎ (25)1354



毎月和やかな雰囲気で開催されています

